

血管診療技師認定試験

症例リストおよび レポート作成にあたっての 注意点

ここでは申請書類のうち、症例リスト・レポート・症例証明のコピー作成方法について、注意点を解説します。

申請書類ダウンロード・作成

認定試験申請書類一覧

- 1) 受験申込書（原本1部+コピー2部）
- 2) 症例リスト 100例分
- 3) レポート 5枚
- 4) 勤務証明書
- 5) 志望動機
- 6) ホームページから申し込んだ際の返信メールを印刷したもの
- 7) CVT認定講習会の受講証のコピー
- 8) 受験資格を示す免許のコピー
- 9) 症例証明のコピー 100例分
- 10) 症例証明コピー返却用のレターパックプラス

※1～8は書類左側に綴り用の2つ穴を開けてください

書類のダウンロード

- 1) 受験申込書、2) 症例リスト、3) レポート、4) 志望動機、5) 勤務証明書 については下記よりダウンロードしてください。

9) 症例証明のコピー

検査報告用紙のコピーや、手術表のコピーなど、症例リストで提出した経験を証明する書類を100例分提出してください。その際、所属施設の規定に従い、申請者の責任で書類提出の許可を得てください。症例証明のコピーは、本試験以外に使用することなく、受験資格確認後に申請者に返却します。

症例証明には実施日時および実施者名が明記されていること。患者の個人情報にはマスクしてください。

また症例リストに合わせた通し番号を必ず記入すること。

個人情報が残っているかどうかは 厳しくチェックされます

マスクすべき内容：①ID， ②名前， ③生年月日

上記がマスクされていない場合**再提出の対象**になります

マスク不要な内容：①年齢， ②性別， ③検査日， ④施設名

※画像に個人情報が残っているかどうかも
チェックしてください

「症例リスト作成の手引き」の内容について 注意点を解説します.

2) 症例リスト

症例リスト作成の手引き (PDF)、症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 (PDF) をよくご覧の上、自験例100例のリスト (20例×5枚) を作成し、診療の指導的立場にある医師の署名捺印を受けてください。指導的立場にある医師は、認定機構構成4学会 (日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会) のいずれかの会員でなければなりません。

[症例リスト作成の手引き \(PDF\)](#)

[症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 \(PDF\)](#)

3) レポート

2) の症例のうち、代表となる5例についてレポートを記載してください。

必要な項目としては、①年齢、②性別、③確定診断名、④行った検査や治療介助の内容、⑤あなたが患者にどのように関わったか、あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、⑥その他記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)

上記①～⑥について所定の用紙に記載してください。

同一疾患については2例まで可としますが、別内容にしてください。

「検査実施件数」とは、医師の指示により血管に係る検査を自ら実施した件数、

「検査介助件数」とは、医師または他の医療職者による検査を介助した件数、

「治療件数」とは、医師の指示による血管に係る治療を自ら実施した件数、

「治療介助件数」とは、医師の行う治療を介助した件数である。

「実践教室件数」とは、看護師向けのワークショップで行った症例の件数である。

ただし現在認められているのは、日本フットケア学会時の実践教室で、かつ CVT 認定機構が認めたものに限る。

なお、各国家資格で認められない検査・治療、ないし所属施設で経験不可能な事柄については

「見学」も認める。ただし見学は1種類の経験につき1件を限度とし、最大40件とする。

**職種によって必要コード数が変わります。
必ず記入上の注意を確認してください。**

■臨床検査技師

検査実施件数 60 件以上必要。内、超音波検査（MR、IVUS は除く）を 30 件以上、
理学的あるいは機能的診断法（ABI/PWV、TBI、SPP、TcPO₂、運動負荷後 ABI、跛行距離測定、サー
モグラフィー、指尖容積脈波、FMD、APG など）2 項目以上を計 20 件以上含むものとする。検査介助、
治療介助経験は必須ではない。総数 100 件。

■診療放射線技師

検査実施件数 60 件以上必要。内、超音波検査（MR、IVUS は除く）を 30 件以上、
放射線使用検査（CTA など）あるいは MRA を 20 件以上含むものとする。
検査介助、治療介助経験は必須ではない。総数 100 件。

■臨床工学技士

検査介助件数 30 件以上かつ治療介助件数 30 件以上を必要とする。
検査実施経験は必須ではない。総数 100 件。

■理学療法士

運動療法や理学療法の治療実施件数 60 件以上を必要とする。

その他治療介助、検査介助、見学を含め総数 100 件。

医師の指示のもと自ら実施する治療手技については 1 患者 10 件まで経験件数としてカウントできるが、複数回の治療経験を提出する場合、1 患者につき 1 回 1 名の経験としか使用できない（1 患者につき複数回の治療介助は認めない）。また、同一病態の治療手技に関しては最大 5 症例とする。1 患者につき複数回の経験を提出する場合は、症例レポート*の提出を必要とする。症例レポートの内容も受験資格として評価され、内容不備と判断されれば、受験資格として認めない場合もある。

※複数回の治療経験をまとめた症例レポートは、A4 用紙 1 枚に患者の年齢、性別、主訴、**現病歴**、既往歴、脈管検査所見、診断、治療内容、考察（特に治療前後の変化に関する）を含め、指導医、所属長の署名捺印を必要とする。**症例レポート**を提出した場合、カルテコピー等は不要である。同一**症例**について複数の治療者が関わった場合、受験者の治療実施期間ないし日時を明確にすること（同一日の経験の共有は認めない）。

■看護師および准看護師

経験内容の内訳は問わない。総数 100 件。

症例リストについての注意点を解説します。

2) 症例リスト

症例リスト作成の手引き (PDF)、症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 (PDF) をよくご覧の上、自験例100例のリスト (20例×5枚) を作成し、診療の指導的立場にある医師の署名捺印を受けてください。指導的立場にある医師は、認定機構構成4学会 (日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会) のいずれかの会員でなければなりません。

[症例リスト作成の手引き \(PDF\)](#)

[症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 \(PDF\)](#)

3) レポート

2) の症例のうち、代表となる5例についてレポートを記載してください。

必要な項目としては、①年齢、②性別、③確定診断名、④行った検査や治療介助の内容、⑤あなたが患者にどのように関わったか、あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、⑥その他記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)

上記①～⑥について所定の用紙に記載してください。

同一疾患については2例まで可としますが、別内容にしてください。

2018年度 第13回血管診療技師認定試験 検査実施、検査介助、治療介助の症例リスト

1枚目/5枚

受験者氏名： 0 0

職種： 0 0

上記のものが以下を行ったことを証明いたします。

指導医所属施設、所属部署、役職：

指導医氏名：

印

指導医所属学会（会員番号）

日本血管外科学会（ ） 日本脈管学会（ ）

日本静脈学会（ ） 日本動脈硬化学会（ ）

通し 番号	実施年月日	※1実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2確定診断名(疑いでも可)	事務局使用欄
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

通し 番号	実施年月日	※1 実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2 確定診断名(疑いでも可)	事務局使用欄
1					
2					



検査・治療の
実施年月日を記入してください

※1 実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2 確定診断



実施コード
1. 検査
2. 検査介助
3. 治療
4. 治療介助
5. 見学
6. 実践教室

右の実施コードを記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・各職種によって必要コード数が違うので、**必ず事前確認を**
- ・1. 検査は、「単独で行っている」検査を指します
- ・臨床工学技士の場合、エコー検査は1ではなく、2として記載してください
- ・放射線技師の場合、検査と検査介助が混乱しています。

※1 実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2 確定診断名(疑いでも可)



具体的な内容を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・エコーだけだと内容が不明なので、下肢動脈エコーや大動脈エコーなど、部位を記載してください。
- ・CT, MRIについても下肢CTや腹部MRIなど記載します。
- ・心臓カテーテル検査は対象になりません。「大動脈造影」など**血管領域の検査**として記載してください。

※1 実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2 確定診断名(疑いでも可)



確定診断名（疑い病名でも可）を記載する

☆特に間違っ提出されている項目

- ・ 検査の場合、検査依頼時の診断名ではなく、**検査後の診断名**を記載します。
- ・ 糖尿病や狭心症などは検査後の診断名として不適切です。あくまで血管疾患としての記載になりますので、異常がなければ**「正常」という記載**になります。
- ・ 必ず異常例を含めてください。

※1 実施コード	検査・治療内容または介助内容	※2 確定診断名(疑いでも可)



確定診断名（疑い病名でも可）を記載する

☆特に間違っって提出されている項目

- ・ABIやSPPなどで、数値上正常でも診断名を「閉塞性動脈硬化症疑い」などの記載が見られます。これは波形からの判断であればよいですが、**数値からでは診断として矛盾しています**ので、再提出になります。
- ・心臓カテーテル検査では、大動脈造影がなければ不可、造影していて異常がなければ「正常」になります。
- ・頭蓋内動脈，冠動脈，門脈など**臓器内血管は対象外**です。

レポートについての注意点を解説します。

2) 症例リスト

症例リスト作成の手引き (PDF)、症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 (PDF) をよくご覧の上、自験例100例のリスト (20例×5枚) を作成し、診療の指導的立場にある医師の署名捺印を受けてください。指導的立場にある医師は、認定機構構成4学会 (日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会) のいずれかの会員でなければなりません。

[症例リスト作成の手引き \(PDF\)](#)

[症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点 \(PDF\)](#)

3) レポート

2) の症例のうち、代表となる5例についてレポートを記載してください。

必要な項目としては、①年齢、②性別、③確定診断名、④行った検査や治療介助の内容、⑤あなたが患者にどのように関わったか、あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、⑥その他記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)

上記①～⑥について所定の用紙に記載してください。

同一疾患については2例まで可としますが、別内容にしてください。

2018年度 第13回血管診療技師認定試験
レポート

1枚目/5枚

受験者氏名 : 0 0
職種 : 0 0

	症例リストNo.	
①	年齢	
②	性別	
③	疾患名	
④	行った検査や治療介助の内容	
⑤	あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより 印象に残ったこと	
⑥	その他 記載しておきたいアピールポイント (必須ではない)	

	症例リストNo.	100例の症例リストに対応した番号を記載
①	年齢	患者の年齢を記載
②	性別	患者の性別を記載
③	疾患名	症例リストに記載した確定診断名を記載
④	行った検査や治療介助の内容	



詳細な記載は不要です。どのようなことを行ったかを簡潔に記載してください。

血管疾患でない症例は選択しないように。
(ベーカー嚢胞や門脈圧亢進症などは対象外です)

⑤

あなたが患者にどう関わったか
あるいは患者に関わったことにより
印象に残ったこと



患者に関わった内容，患者に関わったことにより印象に残ったこと，5例のレポートに選んだ理由について詳細に記載してください。

深部静脈血栓症を想定

⑤

あなたが患者にどう関わったか
あるいは患者に関わったことにより
印象に残ったこと

例：右下肢の腫脹でエコー検査依頼あり、大腿部以遠の発赤腫脹あり、右下腿 Homans 徴候(+). Dダイマー $2.5\mu\text{g}/\text{dl}$ と高値. 下肢静脈エコーにて右大腿静脈からひらめ静脈にかけて血栓を認めた.
また、右大腿静脈中枢部には浮遊性血栓を認め、肺血栓塞栓症のリスクが高いと判断した. 主治医に直接連絡したところ、同日 IVC フィルター留置の方針となった.
エコー検査が早急な治療方針決定に役立った症例だった.

ダメな例：

- ・ 静脈エコーを行った.
- ・ 静脈エコーで浮遊性血栓を認めた.
- ・ 興味深い症例だった.

など

⑥

その他
記載しておきたいアピールポイント
(必須ではない)



検査時の工夫点や多職種連携など、アピールするポイントがあれば記載してください

例：今回、多職種連携がうまくいきました。
今後CVTを取得することに自信がつけました。

その他，提出時に確認しておいて欲しい項目

☆症例証明のコピー

自身が関わったことを証明する必要があります
検査の場合は，自身の名前を記入しておいてください
CTなどの検査依頼書を提出している場合は，自身の
名前と指導医のサインを記入してください。
カルテ内容を提出している場合は自身の名前と指導医の
サインを記入してください。

空白部分にサインを記載

身長: 154.0 cm 体重: 46.4 kg BMI: 19.6 kg/m ² HR: 62 [拍/分]				AF: 460 mm
動脈の硬さ CAVI	右	7.9	~8.9	血管の硬さは60代前半に相当します。
	左	7.9	(8.7 ± 0.8)	血管の硬さは60代前半に相当します。
動脈の詰り ABI	右	1.05		正常範囲です。
	左	1.04		正常範囲です。
血圧[mmHg]	右上腕	105 / 67	(80)	正常範囲です。
血圧 [mmHg]				ECG x2 
右上腕	左上腕	右足首	左足首	
105 / 67	98 / 68	110 / 62	109 / 60	
(80)	(77)	(81)	(74)	

- 以上，症例リスト，レポート作成についての主な注意点を解説しました.
- 2018年は約6割の方が何らかの形で再提出対象となっています.
- 「症例リスト作成の手引き」をよく読んで提出してください.